

Begleiten

94号



2017. 1. 8

2017年 新年のご挨拶

代表世話人 関根 和彦

あけましておめでとうございます。

元旦から暖かな晴天が続いておりますが、私たちの生活も平和で穏やかな日々が続けられるよう、こころから願ってやみません。

この数年の日本は、自公などの改憲勢力が勢力を伸ばし、着実に戦争の準備が進んでいる状況です。2014年7月の閣議決定による9条解釈の変更に基づき、2015年は戦争法とも呼ばれる安全保障関係法が衆参両院で強行採決され、2016年には参議院選挙において自公など改憲勢力が2/3を占めるに至りました。

しかし、この間日本の平和を守ろうとする勢力も着実に輪を広げ、力をつけています。2015年にはそれまで野党の政党別に組織されていた反戦平和の全国組織が共同して、総がかり行動実行委員会を作って安保法制廃案の運動を推進し、2016年から17年にかけてはさらに学者の会やシールズ、ママの会などの有志と共に市民連合を作って、全国32の参議院1人区に野党統一候補を立て、11名を当選させました。これは勝てたとはまでは言えませんが、なかなかの健闘で、反転攻勢に転じたと言える成果を挙げたと言えるのではないのでしょうか。

日本の近現代史の中で、かつてないことが起こりつつあるわけで、平成の市民革命の始まりであると理解することもできると思います。そして、この動きは、今年行われると予想されている衆議院選挙に向けて、市民と野党をつなぐ会などの形で、全国に広がりつつあるのです。

ベグライテンは、このような全国の大きなうねりの中で、2015年から16年にかけて、会として初めて、安保法制のような政治的な問題に正面から取り組み、自らが主催する毎月の講演会を成功させたほか、立憲デモクラシーの会や市民連合、総がかり行動実行委員会などが行う講演会、集会、抗議行動にも参加しました。ケアの思想を学ぶ小さな勉強会から始まったベグライテンが、このような政治的な行動をとることができるようになったことは、ベグライテンの市民主義もようやく成人の域に達したと評価できると思います。

上智大学の先生方とも協力して充実した講座を企画運営し、東京法律事務所等の弁護士とも協力して、憲法カフェを25回も開催しました。憲法カフェに協力してくださったある弁護士などは、「ベグライテンネットワークは、恐ろしいわね。（恐ろしいほど浸透力があって、素晴らしいわね。）」などと激賞してくださいましたし、上智大学コミュニティ・カレッジの講座「安全保障法制と憲法」などは、NHKに取材されニュースの時間に紹介されるなど注目を集めました。

最近のベグライテンの活動を評価しながらも、少し公共哲学に偏っているのではないかと好意的に注意して下さる方もいます。確かにそのような印象を与えてしまうようなところがあったかもしれませんが。安倍第二次政権が成立して以来、日本は急速に保守・復古主義化するとともに、新自由主義、市場原理主義、グローバリズムへの道を驀進し始めたので、このことをみんなで認識し、対処する道を考えようと、安保法制に関する学び、立憲主義、民主主義、憲法に関する学びの機会が増えたこと、その分ケアに関する学びの機会が少し減ってしまったことが、そのような印象を与えたのかもしれません。

しかしケアを学ぶ機会が少し減ってしまったのは、ベグライテンの世話人会の企画と実施に関する力量が少し足りなかったということであって、ケアの思想と公共哲学を共に学び、身につけて行けば、人間らしく生き、また人間らしく生きられる社会をつくることのできるというベグライテンの信念、基本理念から外れたというわけではありません。

むしろ、10月のベグライテン15周年記念特別例会における島菌進先生のお話し、11月の樋口陽一先生のお話し、中野晃一先生と奥田愛基さんの対談、12月のミシュカの森2016での星野智幸さんと入江杏さん対話などを聴いていると、日本の実社会における具体的な事案においては互いに対立した対応を提示してくるように見えるケアの思想と公共哲学が、一人ひとりの人間の尊厳を大切にするという同じ根を持ち、互いに補完しあうものであることを確信することができて、今年のベグライテンの活動は、その活動ぶりが世間の注目を引いたと言うだけでなく、活動の内容が一段と質的に深いものになっていると思えてなりません。

今年の方針としては、第1に少しケアに関する学びの機会を増やして、ケアと公共のバランスを取り戻そうと考えています。現在バランスが少し崩れているのは、先ほど書いたように、少ない力で大きな課題に取り組もうとしたからであって、「人間らしく生き、また人間らしく生きられる社会をつくろう」というベグライテンの目標や基本理念からすれば、決して望ましいことではありません。

また運動面から見ても、今年の参議院選挙で憲法カフェを25回も開きましたが、ケアが前面に出ている問題に取り組んでいるところでは憲法カフェも発展して行くのに、ケアに取り組んでいないところでは直ぐに行き詰まってしまったではありませんか。逆に、ケアの思想を学び献身的に子供や老人に献身することにのみ集中してきた保育や介護の職場では、低賃金に陥り、職場を維持することすらできなくなっているのではないのでしょうか？

この問題は、とても大切な問題で、とてもここで論じつくすことなどできませんので、今後みなさんと意見を交換し、深めて行きたいと思います。

次に、15年を経て、ベグライテンはいろいろな経験を積み、認識を深めてきました。また、例会などに色々な方の参加を得て、ML登録者も1,100人に達しました。そろそろ、内外に向けて発信し、情報を交換するだけでなく、経験や意見の交換をし、学び合い、分かち合う文化を創り出して行こうではありませんか。これもまた、言うは易く、行うは大変な問題ですが…

現在のベグライテンは、比較的少数の頑張り屋さんが牽引車になって、運営されています。しかしこのような体制では、長続きできないことは明らかです。この会報を読んでおられる方たちが、世話人として、また協力員として、ベグライテンの運動に積極的に参加して下さるよう、心から訴えます。

◇ベグライテン 1 月例会のご案内◇

制約されたくない国家

～憲法 9 条改正と緊急事態条項新設を中心に～

【講師】青井 未帆 さん (学習院大学大学院 法務研究科教授)

【日時】1 月 14 日(土) 14:00～16:30 【場所】上智大学 四谷校舎 12 号館 1F 102 教室

【アクセス】千代田区紀尾井町 7-1 http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya

(JR 中央線・東京メトロ丸の内線/南北線四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩 7 分)

【参加費】千円 (学生・障害のある人 500 円) ☆どなたでも参加できます。事前申込不要です。

終了後、講師を囲んでの懇親会にも是非ご参加ください。(各自が飲食した分だけをお支払い頂く形式です)

【講師略歴】東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得満期退学。信州大学准教授、成城大学准教授などを経て 2011 年より現職。主な著書：『憲法と政治』(岩波新書)、『憲法を守るのは誰か』

(幻冬者ルネッサンス新書)、『国家安全保障基本法批判』(岩波ブックレット) など

【講師から一言】政府は、改憲に向けてじわりと歩みを進めているように見えます。日本国憲法改正草案は、個別の条文案が多くの問題を抱えているのみならず、その前提としているはずの国家と個人の関係が日本国憲法や近代憲法とは逆さまであるところが大問題です。しかし、「お示ししている」と首相自身が何度も述べているわりに、改憲案の想定している国家観、個人観といったことはあまり一般的には知られていません。9 条改正や緊急事態条項新設といった事柄もまた、かかる文脈において考える必要があると考えます。

【主催】ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】上智大学哲学科

【問合せ】090-9146-6667(関根) ANA71805@nifty.com(入江)

◇ベグライテン 2 月例会のご案内◇

なぜ日本の医療・介護が充実しないのか～温故知新、ルーツは明治維新にあった～

【講師】本田 宏さん (NPO 法人 医療制度研究会副理事長)

【日時】2017 年 2 月 19 日(日) 14:00～16:30

【場所】上智大学 中央図書館 8F 821 会議室 (入館時にチェックが必要な図書館 8 階が会場です)

【アクセス】千代田区紀尾井町 7-1 http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya

(JR 中央線・東京メトロ丸の内線/南北線四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩 7 分)

【参加費】千円 (学生・障害のある人 500 円) ☆どなたでも参加できますが、事前申し込みが必要です。

終了後、講師を囲んでの懇親会を予定しています。(各自が飲食した分だけをお支払い頂く形式です)

【講師略歴】1954 年；福島県郡山市生まれ、1979 年；国立弘前大学医学部卒、1989 年；埼玉県済生会栗橋病院外科部長、1994 年；東京女子医科大学第 3 外科助教授、2001 年；栗橋病院副院長、2011 年；同院院長補佐、2015 年；同院退職、現在に至る

【講師から一言】全国一医師不足の埼玉県から医療再生の活動を十数年続けて、日本の政治が変わらなければ医療・介護&社会保障再生は不可能ということを感じました。2014年に還暦を迎えたのを機に2015年3月で36年間の外科医生活に終止符を打ち、講演等の情報発信と種々の市民活動参加を通じて幅広い国民の連帯を形成するために全力を投じています。

【申込方法】氏名を明記し、2/19講演会参加希望と書いて、前日までに、メールで info@begleiten.org から、お申込みください。特に返信しませんが、定員を超えた場合は、その旨ご連絡します。当日図書館入り口で作成された名簿にチェックを入れてご入館ください。図書館が会場のため、事前に申し込みをしないと、入館できません。

【主催】ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】上智大学哲学科

【問合せ】090-9146-6667(関根) ANA71805@nifty.com(入江)

◆ 「癌研有明病院緩和ケア病棟」を訪問してみませんか？ ◆

「癌研有明病院緩和ケア病棟」の訪問を企画、参加者を募集中です。同病院及び唐渡敦也先生など関係者のご厚意により、訪問が実現しました。唐渡先生が自らご説明、ご案内して下さいます。参加したい方は、下記によりお申し込みください。先着順です。

【日時】2017年1月29日(日) 14:00~16:30 【定員】20名(先着順) 【参加費】500円(現地徴収)

【申込方法】氏名(ふりがな)、〒、住所、電話、携帯、メールアドレスを記入し、タイトルに「癌研有明病院訪問参加希望」と記載の上、下記にメールかファックスでお申し込みください。(先着順ですので、早めにお申し込みください。) なお、お問い合わせは病院ではなく、ベグライテン関根まで(090-9146-6667)

E-mail: 初海 浩子 info@begleiten.org Fax: 関根 和彦 045-481-4912

【集合場所】癌研有明病院1階ロビー総合案内付近 13:45

(正面玄関は閉まっていますので、左方向にある通用門からお入りください。)

江東区有明3-10-6 <http://www.jfcr.or.jp/access/index.html> TEL:03-3520-0111(大代表)

【アクセス】りんかい線 国際展示場駅 徒歩4分 ゆりかもめ 有明駅徒歩2分

◎ 訪問に当たって、次のようにお願いしてあります。

1. 下記についての説明及び質疑応答

- (1) 緩和ケア病棟の設置及び運営の理念
- (2) 施設及び運営体制の概要
- (3) 患者に対する医学的、生活的、心理的なケアとスピリチュアル・ケア
- (4) 家族・特に遺族に対するケア
- (5) スタッフのストレス・ケア
- (6) ボランティアについて、位置付け、体制、教育訓練、ストレス・ケアなど

2. 許される範囲での施設見学 ◎唐戸先生が、説明、案内して下さいます。

憲法カフェを再開します！

明けましておめでとうございます。一昨年から昨年にかけて、ベグライテンは30回に近い憲法カフェを開きましたが、正直疲れが出て、しばらく休止しておりました。

しかし安倍首相の所信表明などを聞いていると、あくまでも憲法改正を目指して、今年後半には衆議院選挙を行おうということらしいので、私たちが自公政権が企てる改憲を阻止すべく、憲法カフェを再開しようと思います。上智大学の橋本容一郎先生にお願いして、自民党憲法改正草案のもとになった日本会議の新憲法大綱について学びます。

カフェ終了後、安保グループの打合せも行い、今年の活動について打合せを行います。積極的に参加くださるよう、ご案内申し上げます。

【日時】 1月26日(木)18:30~20:30

【場所】 上智大学7号館 3F 哲学科共用室(仮・変更の際は、哲学科共用室のドアに変更先を掲示)

【講師】 橋本容一郎先生(上智大学文学部哲学科教授【司会】 関根和彦

【テーマ】 日本会議の「新憲法の大綱」について

ベグライテン 安保グループ打合せ

引き続き、ベグライテン安保グループの打合せを行います。

【議題】 安保グループの今年の運動方針について【司会】 大塩 剛

【問合せ先】 大塩 剛 (080-1126-8718 VEU03273@nifty.ne.jp)

◇ 第4回「若者憲法カフェ」のお知らせ◇

法政大学の小宮修太郎先生が主催されていますが、一般の方も参加可能です。

先生からのコメントは「今年1回目の若者中心の憲法カフェのお知らせです。今回は、格差と貧困の問題を国際的な視野で考えてみるという内容になると思います。関心のある方は、前日までに下記の連絡先へご連絡ください。(年齢制限はありません。(^_^))」

【日程】 1月20日(金曜) 15時~16時半頃 【集合時間】 14時50分

【場所】 法政大学の市ヶ谷キャンパス。富士見校舎の5階、507教室。

【集合場所】 法政大学 富士見校舎の1階、エレベーター前

【全体テーマ】 「若者の貧困・格差社会について」

【連絡先】 komiyash@vega.ocn.ne.jp 小宮修太郎

★★2016年開催の秋の講演会・勉強会のご報告・ご感想★★

◆公共哲学を学ぶ会(樋口陽一先生講演会)のご報告◆

いま「国民」の「主権は」?

~エリートを拒否する「国民」? 「強い権力」を求める「国民」?そして日本は?~

【日時】 11月12日(土) 15:00~17:00

【場所】 上智大学 12号館 3F 302教室

【参加費】 千円(学生/生保・障害者 500円) ☆どなたでも参加できます。事前申込は、不要です。

【講師】 樋口 陽一 さん(東京大学名誉教授、上智大学元教員、法学博士(憲法学))

【講師から一言】「国民」が「主権」者だということは、どういうことなのでしょう。どうみるべきなのでしょう。私の話の当日に、トランプ大統領が実現している可能性は決してないわけではない。イギリスの国民投票は予想に反してEU離脱を決めた。ハンガリーのオルバン政権やトルコのエルドガン政権の強権発動は、国民に支持されている。何よりプーチン政権は圧倒的に国民の人気を集めている。そして、日本は？……みなさんと一緒に考えてみたい。

【主催】 ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>
ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】 上智大学哲学科

★ご参加下さいました A.S さんよりのご報告、ご感想をご許可を得て掲載させていただきます。

樋口先生のお話は、私には難しく、理解できているかどうか自信がないのですが、理解できた範囲で書き出してみました。先生のお話は、必ずしも当面する政局について明るい展望を与え、私たちに勇気を与えてくれるようなお話ではありませんでしたが、長い目で見れば私たちは必ず勝利できると、深いところで納得させてくださるお話でした。

英国のEU離脱、EU域内の揺らぎ、トランプ旋風等、各国の政治潮流の変化から説き起こされ、基本的人権、立憲主義、国民主権の視座からお話になりました。

〔ブレクジット(英国のEU離脱)〕

国会主権(国会で二大政党が熟議を尽くして国を動かすの意味)が特徴的な国であるにも拘わらず、前政権がいわば丸投げして政策決定を国民投票に委ねたことは、大変例外的な事態。そのため、決定過程の法的正当性が貴族院に属す高等法院の審議に付託され、裁判の行方にも関心が寄せられている。

今回の要因として挙げられる工業労働者の経済的不安、その貧困の原因は、EUなのか？サッチャリズムなのか？

また、政権サイドが働きかけたメディアによる操作も一因か？EU域内の移民問題(東欧圏からの労働者受け入れの問題)が、ムスリム等におき替えられた？誤謬を含む表現の多用は、根本原因を一般市民の意識より遠ざけるため？

議会制民主主義の発展と立憲君主制の礎として成熟した市民社会を支えてきたと考えられてきたものは、ケンブリッジ・オクスフォード両大学に代表される知性と「ノブリスオブリージュ」の伝統・勇気。しかし、今回の事態の要因に政治への不信があると考えられ、国民の怒りの矛先に従来型の政治制度も含まれていると考えるべきなのだろうか。

基本的人権と立憲主義は、元々は貴族たちが国王になって行く有力貴族に対して、自らの尊厳を保証するように求めたところから発している。有産階級が台頭してくるにつれて、支配層である国王と貴族に対して、自らの生命、身体、財産の保全、思想信条の自由を求め、政治参加を求めたことが基本的人権を発展させ、議会制民主主義を生み出した。19世紀以後、都市小市民層、労働者、農民に選挙権が与えられるにつれて、基本的人権と議会制民主主義は発展してきたが、国民主権と言えるほどに成熟したと言えるのだろうか？実際に権力を握っているシティの超富裕層とグローバルな多国籍企業により行政権が拡大強化され、メディアを操作されて、ポピュリズムに陥っているのではないのか？

〔EU域内のシリア移民流入問題〕

EU域内でも経済的格差の存在が原因で厳格な国境警備は一部に残ってはいたが、ハンガリーのオルバン政権は、強硬な対移民・難民政策をとることを鮮明にした。ドイツ・メルケル首相は、移民受け入れに自国が強硬に反対するならば、首相職を辞すると自身の政治的見解を表明していたが、最近では移民排

除を求める世論に押されて、態度を軟化させている。フランスでも、移民排斥を求める極右政党が台頭している。強権的なトルコのエルドガン政権、ロシアのプーチン政権は、圧倒的な国民の人気を集めている。

〔アメリカ大統領選トランプ候補の勝利〕

オバマ政権中の失業率改善の陰に隠れてきた、何百万人ものミッシングワーカーと呼ばれる求職しない人々の存在（経済のグローバル化、テクノロジーの革新）が選挙戦の背景に。

普及し始めた自動運転技術→トラック運転手約 390 万人、ドライブイン従業者 100 万人、合わせて 500 万人にとり潜在的な脅威。既得権益を持つ人への反感が垣間見られたのも特徴。

〔サンダース候補への人気、支持〕

サンダース現象に見られた危機感共有は、60 年代の徴兵制反対の時と類似していたように思われた。ベトナム戦争・徴兵制→戦争に行くべきかどうかという共通の危機感が中産階級に共有されていた。東部を中心にしたイスタブリッシュメントの代表者と見做され、トランプ候補が煽る不法移民問題に有効に対処できないクリントン候補への反発と危機感である。

〔まとめ〕

政治を動かすものは、感情であり、怒りである。支配層によるメディア操作に誘導されてポピュリズムに乗った強権的な政府が、議会制民主主義をゆがめ、立憲主義を無視して、基本的人権をも軽視するような事態を招きつつあるように見える。しかし、これまでの歴史にもあったように、人間としての尊厳の保証を求める人間の戦いは、何 10 年、時には何百年の単位で、一進一退を繰り返しながら進むものであって、それほど遠くない将来には必ず国民主権と呼ぶにふさわしい政府を確立する国民に成長してゆくものと信じている。

◆対談・公共哲学を学ぶ会のご報告◆

市民の力はどこへ向かうのか～市民連合、野党共闘、リデモスを語る

中野晃一さん（上智大学国際教養学部教授）×奥田愛基さん（ReDEMOS 代表理事）

昨夏、違憲の安保法制強行に対する国会前抗議に結集した市民運動は、今年、野党共闘を後押しし、参議院選挙に挑みました。勝ち取った成果が少なくない一方、多くの課題もまた残っています。そしてさらに東京都知事選、新潟県知事選、そして二つの補選を経る過程で、さまざまな方面から野党共闘に対する疑義や批判も噴出しました。

衆議院の解散総選挙や改憲論議の行く末をにらみつつ、私たち市民はいかにして政党政治にはたらきかけ、また選挙のあり方を変えていくことができるのか、率直な議論を交わす機会としたいと思います。あわせて、市民のためのシンクタンクを志す「リデモス」の取り組みについてご紹介することを通じて直近の政局の先にある日本社会の未来に思いを馳せたいと考えます。

【日時】 2016 年 11 月 20 日(日) 16:30～19:00 【参加費】 千円（学生／生保・障害者 500 円）

【会場】 上智大学 中央図書館 9F 911 会議室

【主催】 ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】 上智大学哲学科

当日は、体調不良にも関わらず、奥田愛基さんもお越しくださり、中野晃一先生のお話を挟んで、

後半は奥田愛基さん、中野晃一さんに加えて、高野千春さん、千葉泰真さんと豪華なメンバーでのトークとなりました。ご参加下さいました梁田 貴之さん（リベラル日本研究会）のシェアをベグライテン FB から転載させていただきます。

★米大統領選を接戦州オハイオなど現地で見えてきた奥田愛基氏は、より「自己責任」、より「強いアメリカ」志向の次期大統領当選を目の当たりにして「しんどい世界」になっていくという思いを強くした様子。しかし、生きていく上で自分で責任取れることと取れないことがあるので「人の生命、人間のあり方から、どういう社会をつくるのか」について認識を深めて対峙していくことが必要であるという見解を披露された。

中野晃一上智大教授も女性蔑視で人種差別的なヘイト思想のトランプ候補当選は「3. 11直後と同じ気分」で日本の支配層は対米追従を加速するだろうと危惧を示し、先般の安倍訪米は「捨てないで」にすぎないと斬って捨てました。このような状況にあっては明るい話しはできないけれど「政治とは権力闘争」という立場に立ち分断を仕掛けてくる人々に対し、「市民＝主権者は、統治する人であり、統治される人であるという相互性を持っている」という認識を明確に持ち「憲法は未完のプロジェクトである」という思いで対抗しなければならないと述べました。

なお米大統領選キャンペーンの現場について奥田氏は「事務所を訪ねてきた人に対して、具体的な外に働きかけるそれなりに重要な仕事を割り振っていくマニュアルがしっかりできていた」と紹介。同じ元 SEALDs の千葉泰真、高野千春両氏も「この前の参院選では、事務所に来た人がたらいまわしにされたり、ひたすらピラを三つに折ったりという場面もあった」「大手広告代理店の分析は有権者を分析することにとどまって、どう働きかけて動かすかという発想はなかった」など実際選挙にかかわった見聞を紹介し、そうした経験から得た知識、ノウハウを蓄積していくことが重要であると指摘しました。

一方、奥田氏によればクリントン陣営の SNS 戦略などは上から降りてくることを流すだけで「それぞれが創意工夫で勝手に発信しているわれわれのやりの方が、むしろ進んでいるし効果があると思う」とのことでした。

さらに各氏から旧 SEALDs を母体に、市民の側のわかりやすい政策論点整理の情報動画などの発信に取り組む ReDEMOS <https://www.facebook.com/redemosjpn/?fref=ts> の活動やイベントの紹介がありました。

◆ケアと公共のセミナー（第3回）のご報告◆

介護があぶない！ ～これ以上の介護保険改悪の動きを止めさせよう！～

あなたは、ある程度の経済的な備えをしておけば、公的な介護が受けられると思いませんか？介護離職が話題になっていますが、他人ごとではありません。あなただって、まともな介護が受けられるかどうかわかりません。日本に公的な介護制度が導入されてから、19年。介護制度は、介護保険法が改定されるたびに、範囲を縮小され、改悪されて、崩壊しつつあります。

最大の問題は、ヘルパーや介護士など介護を担当する人たちが、肉体的にも感情面でも、かなりの過重、過密な労働をこなしているのに、極めて低賃金であるということです。折角若い人が情熱をもつ

て介護の仕事についても、結婚するために退職するなど、介護に携わる人の退職と高齢化が進んでいます。このままでは、日本の介護制度は、人材面から崩壊してしまいます。

高いお金を積んで、親を介護付きの住宅に入居させても、褥瘡だらけになっている話を聞いたことはありませんか？これ以上の介護制度改悪を許せば、あなたが受けられる介護は、どうなっているのでしょうか？しっかりと現状を聴いて、考えてみませんか？

【日時】 12月4日(日)16:30~18:30 ★場所は上智大学ではないのでご注意ください。

【場所】 真生会館 地下ホール 【参加費】 1000円

【講師】 小島 美里さん(元新座市市議、暮らしネット えん 代表理事) <http://npoenn.com/>

【主催】 ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】 上智大学哲学科

★企画された樋口さんのご報告から・・・介護保険制度中級編、ご参加者も現場で働く方から介護の事は初めての方までおいででした。介護保険制度は初めの設定当初よりどんどん縮小傾向でありとても大事な生活支援の部分が切れそうだそうです。生活支援とは老衰や認知症でだんだん生活が立ちいなくなってきた方を掃除や買い物などしてあげる事で生活を支える一番大事な介護の入り口です。ニョキニョキできているサービス付き高齢者住宅(サ高住)は施設ではなく在宅の扱いだそうです。懇親会で出会った介護職の方によるとかなり現場はひどい状況になっているそうです。人の命なんてどうでもいいと思っている割のいいバイトだと思っている若者が夜の当直をやっているそうです。夜に働いてくれる人はいないのでどんな人でも文句は言えないとの事。そんな状況で介護の現場ではいろいろな事件が起こっている・・・皆さん介護保険料を払っています。実態がどんなか興味を持って下さい。以上のようになかなか普段は聴くことができない内容でした。ありがとうございました。

★★ その他のカレンダー★★

◇ 「立憲デモクラシー講座」 第二期 4回、5回のご案内 ◇

安保法制反対運動の高まりに触発され、立憲デモクラシーに対する関心が高まったことを受け、この運動に参加した、あるいはこの運動に関心をもった市民の方々に向けて、立憲主義の理念、憲法に基づく政治とは何か、今後立憲デモクラシーをいかにして回復していくかといった諸課題をめぐって、連続講義が2017年に入っても続きます。年明けから会場が早稲田大学早稲田キャンパスになります。皆さまのご来場をお待ちしております。無料で予約も不要です。会場など、委細はホームページでご確認ください。
<http://constitutionaldemocracyjapan.tumblr.com/>

【第4回日時】 2017年1月13日(金)18:30~20:30 (開場:18:00)

【会場】 早稲田大学早稲田キャンパス3号館501教室(定員370名)

【講師】 山口二郎(法政大学・政治学) 【タイトル】 「民主主義と多数決」

【第5回日時】 2017年3月10日(金)18:30~20:30 (開場:18:00)

【会場】 早稲田大学早稲田キャンパス3号館402教室(定員285名)

【講師】 青井未帆(学習院大学・憲法学) 【タイトル】 「裁判所の果たす役割」

◇真生会館 土曜日午後（13時30分～15時30分）講座のご案内◇

現代人の生き方、社会を考える

—大きな力に操られず、流されずに自分らしく生きるために—

真生会館は、「渇き、探し、求める —真理・生命—」として、キリスト教を通じて現代社会と向き合い、真理と生命を求める人々のために設立されました一般財団法人です。

真生会館設立目的としては、「学生及び社会人を対象とし、カトリックの精神に則り、その智徳を深め、また、豊かな知性と教養を高め、混迷する社会に貢献する人を育成することを目的とする」と定められていると伺いました。クリスチャンでない私のようなものも、この場所での学びに目を開かされ、気づきと創造のきっかけを与えて頂いたと感謝しています。講座一覧を拝見すると、老若男女を問わず、広く、真の意味での生涯養成目指し、弱い立場の人々に寄り添う姿勢を意識し、真生会館の講座が企画されていることを感じます。今後の講座には少しだけ、私もできることをさせて頂くことになり、嬉しいです。感謝の気持ちを少しでもお返ししたいと思っています。ここには土曜日の午後の講座をご紹介致しましたが、他に、日曜日や週日にも、時間帯も様々に魅力的な講座がたくさん用意されています。真生会館の場所は JR 総武線の信濃町の駅から1分。2016年、10月10日に、新装オープンした建物は、木のぬくもりと土の落ち着きに満ちた、温かな雰囲気です。どなたにも敷居の低い学びの場となっておりますので、是非一度ご参加ください。

【プログラムと参加費】 各回千円 別々にお申し込みが可能です、お気軽にお問い合わせを。

- 1月14日 孫崎 享（外交官・評論家）「トランプ大統領下の日本の安全保障」
 - 1月21日 倉持 麟太郎（弁護士）「私たちの自由・日常と憲法についてちょっとだけ真剣に考える」
 - 1月28日 下村 健一（慶応大学招聘教授・元TBSキャスター）「情報に踊らされないための4つの？」
 - 2月4日 山下 徹（元株式会社データ社長・田園調布雙葉学園理事）「貢献力の経営を目指して」
 - 2月18日 森 一弘（真生会館理事長）「はじめに人ありき、愛ありきを貫いたキリスト」
 - 2月25日 片田 珠美（精神科医・『母に縛られた娘たち』著者）「家族とどう向き合うか」
- ★シリーズ講座を終えて 受講後、学んだこと、気付いたこと、感じたこと等々の分かち合います。
- 3月11日 入江 杏（ミシュカの森主宰）「分かち合い」

【お申込み・お問い合わせ】 一般財団法人真生会館（JR 総武線信濃町駅改札を出て右側徒歩1分）

〒160-0016 東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

電話 03-3351-7121（受付代表・受付時間 10:00-16:45） ファックス 03-3358-9700

E-mail: gakushu@catholic-shinseikaikan.or.jp

HP: <http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

◇アートセラピストによる心に働きかけるアートスタディ◇

「ミシュカの森」でもずっとお世話になっている心理療法士で、東京都スクールカウンセラーとしても、日本で数少ないアートセラピーとマレッジ&ファミリーセラピーの専門家としても各方面で活躍されている倉石聡子先生は、杉並区のスタジオを中心に様々なプログラムを展開されています。今回は、公共

の施設で開かれる、直近の支援者向けのものをご紹介します。他にも倉石先生主宰のアップコンセプト・スタジオ（杉並区下井草 4-31-15 和光マンション1F）は、杉並子育て応援券使える親子向け・子ども向けのオープン・アトリエセッションや、集団・個人向けの様々なワークショップ、連続講座、マルシェなど、多彩な活動の拠点となっています。是非一度お立ち寄りください。

【日時】1月15日（日）10:00～15:00 【場所】井草地域区民センター（杉並区下井草 5-7-22）

【対象】教育・医療・福祉・心理等の分野で、対人援助に表現活動を取り入れたい方 【参加費】8000円

【テーマ】グループワークの形が与える影響

社会を見てみても、集団が個人に与える影響は様々です。グループワークの進め方によって、表現そのものや参加者の気持ちにどのような影響を与えるのか、個人ワークと共同制作をそれぞれ体験しながら考えます。

【講師】倉石聡子（アップコンセプト主宰・臨床心理士）辻ロビン（アートセラピスト）

【問い合わせ・詳細】studio@apconcept.jp スタジオ直通電話 070-6635-1515

◇ 第41回千葉県小児保健協会総会のお知らせ ◇

子どもの貧困と健康シンポジウム

講演を聞くだけでなく、地元からの発信もある一般の方も歓迎という講演会をご紹介します。

【日時】2017年1月19日（木）13:00～17:00 【参加費】無料

【場所】千葉市総合保健医療センター5階大会議室

【特別講演1】山野 良一（名寄市立大学 保健福祉学部社会保育学科短期大学部児童学科教授）

「日本の子どもの貧困をどう考えるか？」

【特別講演2】和田 浩（健和会病院 小児科）「子どもの貧困～現場でどう気づき支援するか～」

【一般セッション】＜小児の貧困＞ 座長 梅津 千若（千葉県こども病院）

① 「児童虐待の背景に見る貧困」 河野 司（千葉県こども病院こども・家族支援センター）

② 「保健室から見える子どもたち」 木原 薫（山武市立睦岡小学校）

③ 「小児科診療所における貧困家庭への支援」 原木 真名（まなこどもクリニック）

この後、「母子保健、虐待」「学校保健、保育」とセッションが続き、市川市立中山小学校、千葉県立泉高等学校、千葉市養護教育センターといった地域の現場の方々から、スクールメディカルサポート事業を通して、子どもたちの未来のためにできることを考えていくシンポジウムです。

◇安倍政権の暴走止めよう！自衛隊は南スーダンから撤退を！1.19 総がかり行動◇

【日時】2017年1月19日（木）18時30分～ 【場所】衆議院第二議員会館前

【主催】戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

◇総がかり国会開会日行動（仮称）◇

【日時】2017年1月20日（金）12時～13時 【場所】衆議院第二議員会館前

【主催】戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

◇日弁連主催 市民集会◇

「バス事故はなぜ？繰り返される事故の原因と対策を考える」

【日時】 2017年1月28日（土）午後1時30分～午後4時30分 【参加費】 無料

【場所】 弁護士会館2階 講堂クレオBC（千代田区霞が関1-1-3）

地下鉄丸ノ内線・日比谷線・千代田線 「霞ヶ関駅」B1-b出口直結

【内容】 ・基調講演：川村雅則氏（北海学園大学教授）

「繰り返されるバス事故と、その背景を考える～交通労働の改善に向けて」

・尾木直樹氏（法政大学教職課程センター長・教授）からの発言

・宮原修平氏（NHKスペシャル「そしてバスは暴走した」担当記者）からの報告

・労働現場からの報告 ・国土交通省担当官からの報告

2016年1月15日、長野県の軽井沢町の国道において、大学生等に乗せた大型スキーバスが、道路脇に転落し、乗員・乗客41人中15人が亡くなるという悲惨な事故が発生し、1年が経ちました。2012年4月に関越自動車道において46人が死傷した事故等、以前にもバス事故が発生し、国による再発防止策が検討されてきたにもかかわらず、再び事故が繰り返されてしまいました。

背景には、バス業界、トラック業界及びタクシー業界等の規制緩和による過当競争、コスト削減に伴う労働者の労働条件の悪化等の影響があることが指摘されています。今回の集会では、交通労働の研究者、ゼミ生を亡くされた尾木直樹教授、事故を取材した記者、労働現場の方、国土交通省担当官等をお招きして、今後このような悲惨な事故が二度と繰り返されることのないよう、原因と対策等について、みなさんと一緒に考えたいと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【主催】 日本弁護士連合会（事前申込不要です）

【お問い合わせ先】 日本弁護士連合会 人権部人権第一課 TEL 03-3580-9857

◇生と死を考える会講座◇

第3回「いのちと言葉」～今日の「いのち」を育む言葉とわざ～

未曾有の高齢社会に突入した日本。経済的な繁栄を誇りながらも、老後の孤独感、医療不安、また若者たちの生きづらさ、自死、さまざまな分野でのハラスメントなど、表面的な明るさとは裏腹に生の闇が社会に潜んでいます。そのような状況のなかで、今日的な死生観を探る講座です。

【日時】 2017年2月13日（月）19:00～20:30

【会場】 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館 2F 215号室

【講師】 田畑邦治氏（本会理事長 白百合女子大学学長 関連著書多数）

【参加費】 会員・学生1,000円 一般1,500円（当日受付にお支払いください）

【対象】 関心のある方、どなたでも 【定員】 先着20名様

【申込方法】 「NPO法人・生と死を考える会」宛に、氏名、住所、連絡先を明記の上、郵便・FAX・メール・電話（火・金午後1時～5時）にてお申込みください。HP→ www.seitosi.org/

【主催】 NPO法人・生と死を考える会 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館 2階 214室

TEL: 03-5577-3935 FAX: 03-5577-3934 Mail: koenkai@seitosi.org

◇しながわチャイルドライン 15 周年イベント◇

「風のかたち」上映会と伊勢真一監督&小児科医細谷亮太氏対談

しながわチャイルドラインは15周年を迎えました。記念行事として、『ドキュメンタリー映画「風のかたち」上映と伊勢真一監督&小児科医師、細谷亮太氏の対談』を予定しています。子どもたちの生きる力と周りの大人が子どもたちにかかわることで力を得ていく姿が共有できる素晴らしい時間になることでしょう。

「風のかたち」は、生きる意味をやわらかに問いかける映画です。映画上映後、さまざまな子どもたちのこと、大人とのつながりを一緒に考え、語り合うというこのイベント、どうぞ、みなさん、2月21日（火）大井町の「きゅりあん小ホール」へお越しください。

多くの方のお越しをお待ちしています。

【日時】平成29年2月21日（火曜日） 18時～21時

【会場】品川区総合区民会館・きゅりあん小ホール

【会費】無料・・・12月中旬より整理券を発行する予定 *保育・手話通訳（有）要予約

【主催】NPO法人しながわチャイルドライン 【後援】品川区・品川区教育委員会・品川区社会福祉協議会

【予約及び問合せ】下記のアドレスに氏名を明記の上、お申し込み下さいませ。

shinagawacl@gmail.com

03-5462-2868

◇ホスピス国際ワークショップ◇

ピースハウスホスピス教育研究所では、ホスピス・緩和ケアの基本的な考え方、ケアの実際、施設の利用法などを知って頂くことを目的として開催される公開セミナー他、各種のセミナー・ワークショップ開催しています。第24回として、2017年2月25日（土）・26日（日）の日程で、Prof. Danai Papadatou、Dr. Amy Yin Man Chow をお招きし、「喪失と悲嘆－悲嘆ケアの専門家とともに考える－」をテーマに開催いたします。

【日時】2017年2月25日（土）・26日（日）（以下の講演は通訳付きです）

【場所】ピースハウスホスピス教育研究所（神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1 ピースハウス病院内）

★詳細はこちらから→ <http://www7.airnet.ne.jp/peace-h/openseminar.html>

【テーマと講師】喪失と悲嘆～悲嘆ケアの専門家とともに考える～

Prof. Danai Papadatou Dr. Amy Yin Man Chow Dr.木澤 義之（ファシリテーター）

【プログラム】 ※プログラムは状況により変更することがあります。

★25日 10:00～17:00 子どもの悲嘆

第1部：大切な人を亡くした子どもとその家族への支援～子どもが体験する喪失と悲嘆～

第2部：生命を脅かす疾患に直面している子どもへの支援～病とともに生きる子どもたち～

第3部：危機状況にある子どもへのケアの実際～重篤な病にある時、大切な人を亡くす時～

★26日 9:00～16:00 医療者の悲嘆

第1部：緩和ケアに従事する専門職の苦悩～ケアする人の喪失と悲嘆～

第2部：個人の知識・技術・価値観を超えて～多職種で一緒に働く～

第3部：緩和ケアにおけるチームの力～レジリエンスの視点から

第4部：ケアと私～自己への気づきとセルフケア

【申し込み】定員は80名、参加費は一般2万円、申込期間は2月17日（金）までですが、
まずは詳細、募集要項をご確認の上、お申し込み下さい。

【問い合わせ先】 ☎259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口 1000-1

ピースハウスホスピス教育研究所 TEL：0465-81-8904 FAX：0465-81-5521

【主催】一般社団法人ライフプランニングセンター ピースハウスホスピス教育研究所

◇港区共催・NPO 法人「暮らしのグリーフサポートみなと」◇

設立記念講演会「悲しみに寄り添う」～グリーフサポート～

【日時】2017年3月4日（土）13時～16時 【定員】150名 【参加費】無料

【会場】港区立男女平等参画センター（リーブラ）港パーク芝浦内1F リーブラホール

【アクセス】JR 田町駅東口芝浦口徒歩5分・都営地下鉄三田駅 A6 出口徒歩6分

グリーフサポートせたがやのファシリテーター講座を受けたことが大きな気づきのきっかけになって立ち上がったNPO法人「暮らしのグリーフサポートみなと」。港区でグリーフサポートの活動を多様に展開していくことを目的としています。設立記念講演会を下記に予定しています。

グリーフサポートが波紋のように広がっていき、「懐の深い」コミュニティがあちこちで機能していくことは励まされることです。奮ってご参加ください。

【プログラム】

★第1部講演 児玉 久仁子氏（東京慈恵会医科大学附属病院看護師・家族支援専門看護師）

児玉先生は民間の緩和ケア病棟に勤務した時に家族支援の難しさを感じ、心理技術研究所でシステムアプローチと言う手法を使った面接技術を学ばれました。その後、家族支援専門看護師教育、認定専門看護師の要請にも携わっています。著書：DVDブック臨床での家族支援1～3（日本看護協会出版会）緩和ケア（青海社）「家族ケアのコツ」連載。

★第2部講演 入江 杏氏（ミシュカの森主宰・世田谷区グリーフサポート検討委員）

2000年末、世田谷一家殺人事件により、隣地に住む妹一家四人を失った入江さん。犯罪被害の悲しみ・苦しみと向き合い、葛藤の中で「生き直し」をした体験から、「悲しみを生きる力に」をテーマとして、上智大学などで非常勤講師を勤め、行政・学校・企業などで講演・勉強会を開催。港区在住、地域の活動にも尽力しています。著書に岩波ジュニア新書「悲しみを生きる力に～被害者遺族からあなたへ」（岩波書店）他多数。

【お申し込み】お名前・ご連絡先を明記の上下記までお申し込みください。

Eメール grief_minato1_info@yahoo.co.jp

◇「存明寺グリーフケアのつどい」ご案内◇

ミシュカの森2016で冒頭にお話下さいました酒井義一御住職の存明寺は、3か月に一度、約3時間の「フリーケアのつどい」を開いておいでです。今年の日程をご紹介します。

【日時】2017年（平成29年）3月25日（土）14時～その後6月24日（土）、9月30日（土）、12月16日（土）

【会場】：真宗大谷派 存明寺（東京都世田谷区北烏山4-15-1）【会費】500円（茶菓子の点心付きです）

【アクセス】京王線「千歳烏山駅」北口より徒歩 20 分。 井の頭線「久我山駅」より徒歩 20 分。

京王線「千歳烏山駅」北口より関東バス「久我山病院行き」にて「寺院通り 3 番」下車すぐ前。

【問い合わせ・連絡先】 真宗大谷派存明寺(住職:酒井義一) 電話 03-3300-5057 sakai@zonmyoji.jp

◇「ミシュカの森 2016」のご報告◇

コトバの力～沈黙を強いるメカニズムに抗して

【日時】 2016 年 12 月 25 日(日) 14:00～16:30 【場所】 上智大学 2 号館 4F 402 教室

【メインゲスト】 星野智幸さん (作家) 【参加費】 千 円

【ゲスト】 酒井義一さん (存明寺住職) 森一弘さん (真生会館理事長)

【主催】 ミシュカの森実行委員会 ベグライテン 【共催】 上智大学哲学科

【問い合わせ】 E-mail: michka.forest@gmail.com (ミシュカの森実行委員会)

今年のテーマは「コトバの力～沈黙を強いるメカニズムに抗して～」。第一部では、酒井義一御住職様、森一弘司教様からのお言葉を賜りつつ、私が、事件後 6 年の間、母から決して事件のことを口外してくるな、と禁じられ、沈黙を守っていたことを話しました。この会を続けて良かったと思ったご感想をはじめにご紹介します。「杏さんが、お母様の事件に対する思い～恥・恐れ(世間体)世間からのステイグマ～によって悲しみを思い切り発することができなかった、しかしそれができるようになった、しかも事件より相当経ってから・・・そのことに深く感動し、心を打たれました。素直な気持ち、喜びも悲しみも大きな声で言うことが憚られる社会ですね。「何も言わない」「何もしない」人が 1 番得をする社会のような気がします。目の前にいる子ども(悲しむ人)に今できることを、今すればよいだけなのですが、何もしない人がいる(多い)ことに強い怒りと悲しみを覚えます。悲しい経験をしたことがない人、健常の人の残酷さ、恐ろしさを感じます。このような現場で、どうしたら悲しみにくれる人、不幸な、ついてない子どもの助けができるか、少しずつ学び、かつ実践したいと思います。」大変重く深いご感想だと心が震えました。

第二部はメインゲストの星野 智幸さんの基調講演です。日本社会のあらゆるところに蔓延する個々に沈黙を強いる力のメカニズムと、それに抗するために自分自身の言葉を紡ぐことの大切さを語って下さいました。後半は、私が星野さんにお聞きするという形で、さらにそのテーマが深めて行こうというトークの試みでした。


メインゲストの星野智幸さんからは会の後で「素晴らしい集いでした！・・・悲しみもトラウマも弱さも、こんなに普通に話せる場において、「なんて自然なんだ！この普通さこそが奇跡だ」と感じました。ゲストスピーカーとしての参加でしたが、入江さんやご住職や司教様のお話を始め、懇親会でやり取りした皆さんのお話、ぼくのほうがたくさんのをいただきました。端的に、今、グリーフケアが必要なのは自分なんじゃないか、と思いました。」という嬉しいお言葉が。

星野さんはこんな風に軽やかに書いて下さっておられますが、日頃どれほど身を切るようにしてコトバを紡いでおられるかを実感します。「これまで、最悪の事態はこうなる、ということをデフォルメした小説を書いてきたが、今や現実が最悪になりつつある。今後は、最悪の事態が過ぎ去った後の世界を書いていきたい。多様性という言葉をあえて使わなくても、それぞれのままでいられる世界を書いてみたい。」と対談でお話して下さったのが印象的深かったです。


さて、私の感想を。メディアが「怒る」「悲しむ」というステレオタイプ化された犯罪被害者像を流すのは、社会がそれを欲するから、とも言えます。かつての事件報道の関心は、加害者に偏っていたことを思えば、突然の不運や、最悪な交錯によることも多い事件や事故で、いかに人生を絶たれてしまったかを克明に伝える被害者・遺族報道は、潤いある眼差しへのメディアのシフトに相違ないとも思います。その過程で、「共感」や「連帯」が生まれることも経験してきました。ありがたいことです。一方で、悲しみや苦しみは千差万別なのに、そこに大きな物語が生まれてしまい、当事者の真意を伝えるナラティブが、厳罰化やセキュリティーを強化する方向に、動員されてしまうのでは？と懸念もします。そのこと自体、犯罪被害者・遺族のみならず、決して市民全体にとってよいことではないと感じるからです。「悲しみ、怒り、また弱音など、現代社会においてマイナスと思われることが実は、新しい世界の入り口になることを生きた言葉で伺えてよかった」というご感想に出会いました。まずはすこしずつでも「弱さの発信」がしやすくなれば・・・と願います。あちこち寄り道しながら続けてきたミシュカの森の営みが「懐の深い」共同体を作るために少しでも機能できたなら・・・それをこそ、サポートと呼び、ケアと呼ばれるものではないかと思えます。もしかしたらそこには近現代の人智を超えた物語が基調通音として響いているのかもしれない。

何度か「ミシュカの森」に足を運んで下さっている方からは、「同じストーリーであってもその時の入江さんの気持ち、世界に対する目が変わることによって、別の光が当てられ、別の声が心に響いてきます。それは私自身が悲しみに出逢ったり、憤ったり、人生を重ねてきているからかもしれません。深い意味でのコミュニケーションの喜びを感じる会でした。」同じストーリーとは、「ミシュカの森の物語」の基調通音を指摘されているのだと思いました。この会のきっかけを作ってくださった稲葉剛さんの本の編集をされた方の眩きを最後に。『「大きな物語」や「マジョリティの声」に、個々の声が抗うことの重要さの一方で、悲しみで弱っている人間が、必ずしも向き合えるとは限らないからこそ、機能に値する「大きな物語」の意義も考えたい』

10年目を迎えた昨年末のミシュカの森は、やはり、いわゆる正義の犯罪報道の文脈からも、消費される娯楽としての悲劇の文脈からもはみ出してしまう「あわい」を満席の会場と分かち合った時間となりましたことを感謝申し上げます。（ミシュカの森主宰 入江 杏）



★★★前段の「ミシュカの森 2016」のご報告で、編集後記にかえさせていただきます。講演会や講座、イベントの情報をお持ちの方はお寄せ下さい。なお「カレンダー」に掲載の一部の催しについては、お出かけの前に、主催団体のHP、FB、Twなどで調べてからお出かけを。書籍や映画などの推薦、投稿も大歓迎です。頂いた記事を並べているだけで、ミシュカの森関連記事以外は、皆様からの投稿が中心の会報です。（編集担当「ミシュカの森」 入江 杏）



会報に関する連絡先：メールで入江まで ANA71805@nifty.com

電話の場合：関根まで 090-9146-6667